第１回　横浜市都市計画マスタープラン改定検討委員会会議録	
日　　時	平成２２年７月２１日（水）１３時００分～１５時０５分
開催場所	市庁舎５階　関係機関執務室
出 席 者 （敬称略）	委員 　小泉秀樹、高見沢実、中村文彦、真野博司、村木美貴、三輪律江、吉田洋子 都市整備局 　櫻井 都市整備局長 事務局 　青木 都市整備局 企画部長、齋藤 都市整備局 都市づくり部長、内海 都市整備局 企画課長、石津 都市整備局 地域まちづくり課 担当課長、吉田 都市整備局 企画課 課長補佐、大蔭 地域まちづくり課 課長補佐
欠 席 者 （敬称略）	委員 　金子忠一
開催形態	公開（傍聴者１０人）
議　　題	１　開会 ２　都市整備局長あいさつ ３　委員の紹介 ４　委員長の選出 ５　議事 (1)　委員会の進め方について (2)　都市づくりの課題について (3)　都市づくりの基本理念と目標等について (4)　その他
決定事項	４　委員長の選出 　事務局推薦及び委員の互選により、高見沢委員を委員長に選出した。

議　　事	**1　開会** （事 務 局）　開会及び資料確認 **2　都市整備局長あいさつ** （櫻井局長）　あいさつ 平成 11 年度に全市の都市計画マスタープランを策定し、平成 17 年度までに全区のプランを策定、地区プランは５地区で策定している。全市版は、10 年ぶりの改定である。この間、周辺状況も大きく変わってきている。人口は増加を前提としていたが、2020 年をピークに減少すると推計されており、確実に横浜市の人口減少は見えてきている。 郊外部の高度成長期の開発地にも高齢化は進んでおり、同時に生産活動、消費活動が低下している。地域生活を脅かす状況が見えてきている。昨年度のパーソントリップ調査でも各年代層の移動方法が変わってきている。 そのような中で、まちづくりの方向も転換、見直しが必要になっている。財政問題も大きくなってきており、大きく社会インフラを積極的、早急に整備することが困難になっている。どのような形で市民サービス向上を図るために努力するかが求められている。バス、都市計画道路の整備、バリアフリー、環境などの問題への対応が求められている。 これらを着実に把握しながら、50 年先という超長期を見据えたうえで、2025 年に向けた都市づくりを考えてく必要がある。 プラン作成には、市民の理解が必要。分かりやすいプランとしたい。 様々な専門分野からの意見を求めながらまとめていきたい。 **3　委員の紹介** （事 務 局）　委員及び事務局の紹介 **4　委員長の選出** 事務局推薦及び委員の互選により、高見沢委員を委員長に選出した。 （委 員 長）　初めて集まったことであり、各委員に抱負などを１分で簡潔に伺いたい。 （小泉委員）　高齢化、環境、市民参加等の面で先端的なマスタープランが求められていると思う。 （中村委員）　環境や福祉、拠点のあり方等に交通が大きくかかわってくる。交通を上手に仕組んでまちづくりに生かせたらと思う。 （真野委員）　この委員会では、産業の立場から都市計画に意見を言いたい。都市と産業の共存のあり方について述べていきたい。

（村木委員）　低炭素型都市づくりを専門としている。都市計画の中にどうやって排出量削減を行っていくか関心がある。

（三輪委員）　建築計画などを専門としており、地域のまちづくりや子供の視点から、都市計画について意見を言いたい。郊外型住宅地の人口減少の中で、都市計画、まちづくりが誘導していくことができるのではないかということで、今回参加できることで期待している。また、建築審査会で、最低敷地規模の問題を議論している。都市マスの中でも考えていけるのではないかと思っている。

（吉田委員）　市民まちづくり活動をしている立場で今回は参加している。区別のマスタープランは、市民意見が反映しやすいが、全市プランの場合は、なかなか市民の意識からは遠い。市民の意見を全市プランに盛り込むにはどうしたらよいかを考えていきたい。

（委 員 長）　横浜は日本で最大の最困難なマスタープランではないかと思う。あまり欲張れないとは思うが、横浜らしいユニークなものも盛り込んでいきたい。市、区、地区のプランが連動してうまく機能するかを考えることも大きなテーマと考えている。

５　議事

(1)　委員会の進め方について

（事 務 局）　資料１、２　説明

（委 員 長）　質問、意見は。

（吉田委員）　①区役所とのやり取りはどうするのか？18 区もあるので難しいと思うが、庁内参加はどうするか？そこも大変重要な部分である。

②地域福祉保健計画との関係をどうするのか？都市計画の議論の場に福祉の人を呼んで意見を聞いてもあまり意見が出ないのではないか。地域福祉保健計画の地区懇談会などでは、区民から都市整備の話も出てきている。

③市民の意見をどう入れるか？都市計画に関心がある団体が育っている。市民の意見を聞く仕組みが必要ではないか。全市プランでは、細かな話になると取り入れるのは難しいが。スケジュールの中にもう少し早い時期から市民参加を考えて計画作りを進めてほしい。

（事 務 局）　21 年度に庁内での検討会で骨子案を検討している。区からは 4 区が代表として参加している。福祉との関係は整合を図るべきところはしっかり整合を図る。市民意見は、中間取りまとめ、11 月に意見を聞くことを検討していけないかと考えている。

（吉田委員）　横浜は広いので、栄区と青葉区では問題意識がまったく違う。4 区ではさびしい。区レベルでの意見が入った全市計画になってほしい。どの区からどのような意見があったかという情報もこの場に示してほしい。

	（委 員 長） モデル区での検討も絡んでくる。昨年度は４区で今年度はモデル区だけなのか、できるだけ具体的に教えてほしい。 （事 務 局） 庁内の検討会には、４区に今年度も引続き入ってもらう。また、18区の定例会等の中では随時情報提供を行っている。今年度のモデル区は、港北区と泉区の２区を対象と考えている。４区とモデル区とは緊密な相談をしながら進めていきたい。 （委 員 長） この委員会は、「意見を聞き検討を深める」ことが目的となっている。プランを作るわけではないので、できるだけ良い意見を言って、良いプランになってほしい。 （中村委員） 今回の議論をする中で、現行プランはどうだったのか総括的な話はどこで聞けるのか。 （事 務 局） 次回には用意したい。 （中村委員） 良い目標でまだできていなければ続けるし、状況が変われば内容を変えるといった具体的な内容が見えるようなものがほしい。 （事 務 局） 工夫をしてみる。 （委 員 長） そもそも進行管理の方法論が確立されていないということもある。 中村委員の意見は、評価しながらやるべきというのか、今後そのような仕組みをつくるべきということなのか。 （中村委員） ある程度の評価が必要。２章のいくつかの項目については、評価としてこうだから今回はこうするといったことが分かるようにしてもらいたい。 （委 員 長） 次回出すというものは、かなりきちっとしたものなのか、ざっくりしたものなのか。 （事 務 局） 全市プランは理念的なことが多く、数字的には示すことは難しい。このベクトルで進んでいるとか、そうでないとかの評価、結果は示すことはできる。 （委 員 長） 次回に出たものを見て議論する。 （三輪委員） 昨年度の庁内検討の内容や他の局の検討内容等の基礎情報も次回提示されるのか。 （事 務 局） 資料３で示しており、後で説明する内容になっている。 **(2) 都市づくりの課題について** （事 務 局） 資料３、４ 説明 （委 員 長） 御意見をいただきたい。 （吉田委員） 前のプランの評価の中で、都市計画道路が進まなかったところをどう捉えるか。例えば、進まなかったところをむしろ良いこととして、公共交通利用に振り返るような発想の転換をしても良いのではないか。商業は市全体としては伸びているのかもしれないが、身近なところでは、商店街から店舗がなくなっている。店舗がマンションに変わっていってしまう傾向がある。生活実感から見た都市づくりの課題を

	捉えるべき。 　生物多様性については、既成市街地でも考えていく必要がある。蚊や蛾の発生等の問題もあり、緑の管理、市民が自然とかかわれる政策を考える必要がある。 　交通では、「誰もが移動しやすい・・・」の項目では、各区で市民参加による散歩道ガイドが作られている。それらを眺めながら横浜市全体を考えるなど、少し違った視点から見ることも必要ではないか。 　そのような視点からのアイデアであれば市民から引き出せるのではないか。 （中村委員）　資料３、４をつながっているという認識でよいか？ 　資料３は考察、分析をほとんどしていない。例えば、パーソントリップの自動車分担率が減っている現況をなぜかという分析を抜きにして、「過度の自動車利用」をどう読むかにつながっていない。データ考察を見誤ってしまうと間違った方向にいってしまう。 　都市計画道路が整備されていることと、市内の道路が整備されていることとは違う。市内のどの道路が使いやすいのかどうか、区ごとにそのバランスが悪ければ、それが何故かが分かれば、交通では何が必要か分かってくる。どのような道路の整備が必要かの議論ができれば良いのではないか。 　横浜の道路はまだまだ歩きにくい。それが見える資料を作ってほしい。歩道がある道路が増えたかどうか。それが他の都市と比較してどうか。そのような資料があれば、資料４の言葉が生きてくる。 （事 務 局）　資料３からどう資料４になったかを分かりやすく示せるよう工夫する。 （委 員 長）　１月の提言案の検討までにはその作業が追いつきそうか？全部受け止めようとすると無理があるのではないか。 （事 務 局）　根拠なく課題があがったという説明はできないので、できる限り整理していきたい。 （中村委員）　重点的な部分だけでも定量的なロジックを整理したい。誰が見ても分かるようなところはやらないというメリハリをつければ良いのではないか。 （真野委員）　①資料４の７つの項目がこれだけで良いかは問題である。特に産業構造の変革がドラスティックに進むことに対し、都市計画がどう対応していくのか。 ②京浜臨海部が大きく変わっていくはず。これにどう対応していくか。 ③羽田の国際空港化は大きなインパクトになる。京浜臨海部は国際臨空都市に変貌する可能性がある。2025 年までに都市計画はいかにあるべきか。 以上の３点を課題にあげておく必要がある。

	このほか、本資料で漏れていることは、横浜に東京などから本社機能が移転してきていること、IT 産業や研究機能が集積してきていること。それに伴い居住者層も変化する可能性もあることの指摘である。資料３には、本社機能、研究機能、サービス機能等の動態についてもまとめておく必要がある。 都市と産業は不可分な関係にある。産業機能、業務機能、生活様式がどう変わっていくかを予見しながら都市づくりを進めていく必要がある。都市が主役（人・産業・業務）に対してどのようなサービスが提供できるかが大切である。その観点からデータ整理をしないとミスマッチになる。産業構造がどう変換しつつあるのかというデータも見ながら議論するというプロセスが必要である。 （村木委員）　資料３と４がどうつながるか？資料４は現況社会変化やグローバルな視点から出てきているので、資料３とはギャップがある。七つの視点の関連するデータを資料３で詳細に詰めていくようにすれば良いのではないか。 ただ、例えば、「脱温暖化都市づくりへの対応」にしても、新しい仕組みをつくれば、どれだけの排出量が減少するかなどの計算などはできない。都市マスには新たな方向性だけを記載して、都市マスの下に具体的な戦略方針を示すような新しい仕組みなども考えられる。 （小泉委員）　行政、市民ともに横浜の問題や将来的な展開方向は直感的には理解しているのではないか。それから逆算してデータを整理し、方向性を検討した方が実りあるものになるのではないか。 課題は分かっているが、どういう現状があって、どのような選択肢があって、その中で何を選択するのかが分かるような資料や検討方式を考えてほしい。 （三輪委員）　具体的に足りない部分。人口減少に関しては、学校の廃校や公共施設の転換の状況のデータも題材になる。住宅増については、開発団地等のミニ開発などの敷地細分化状況やまちづくり条例、地区計画などと絡みながらの現場状況は区レベルではあがってくるのではないか。その辺の土地利用転換等の情報も横において考えるべきではないか。 （委 員 長）　資料が結構古い。平成７年から 17 年といったものが多い。平成 22 年データ等が使えない状況なのか。 （事 務 局）　国勢調査のまとまった時期が 19 年とか 20 年。そういう意味では、最新のデータということになる。 （委 員 長）　できるだけ新しいデータを補ってやらないと、古いトレンドをみることになる。 資料読み込みでは、論理的な分析などが分かりやすいように補ってほしい。 産業面や施設関係では、落ちている面はできる範囲でフォローしてほしい。

	身近な商業の動向等は市民の意見を聞く機会を設けることも考えているという発言もあったので、市民の考えを反映することとして検討してほしい。 資料の作り方としては、資料４から逆に資料３を作るような考え方もあるが、ストックマネジメントの考え方も含め、もう一度課題の捉え方を議論したうえで、さかのぼってデータを整理してほしい。 （中村委員）　資料４の⑤が「新たな」でごまかされている感じがする。他はもう少し具体的な表現になっている。 ③の最後の項目の「低下している」、⑦の最後の項目の「望ましい」以外は全部「必要である」になっている。表現を考えてほしい。 （委 員 長）　資料の４を作成した思い入れ等やいろいろな注文に対して事務局から何かあるか。 （事 務 局）　前の都市マスからかなりトーンダウン、方向転換をしなければならないところがあるが、そうかと言って元気な横浜を作っていかなければならないというジレンマもある。いろいろな工夫をしながら夢のある未来を入れていきたい。 （委 員 長）　注文には対応できそうか。 （事 務 局）　まとめ方のヒントを頂いたので、再度議論して、不足しているものについても検討したい。 （委 員 長）　前向きによろしくお願いします。 **⑶　都市づくりの基本理念と目標等について** （事 務 局）　資料５、６　説明 （中村委員）　資料５は資料４と整合している。見出しの言葉が少し違うところに意図を感じる。無理に言葉を変えるのではなく、課題を受けズバッと理念につなげるような表現で整理したほうが良いのではないか。 方策の中が細かい。交通に関しては、自動車に対してどっち向きで行くのかがぐらついている。生活や物流、救急車、消防の面からは、基本道路が必要だとしているが、環境の項目にいくと「過度な自動車利用」ということになる。鉄道、自動車、バスなどの「効率的利用」の「効率的」の解釈によって変わってくる。電気自動車や自転車利用、カーシェアリングなどのキーワードをどうとらえるかもあってもいいのではないか。 資料６の２ページに下の図では、鶴見川が生かされていない。資料６の１ページの六つの●の中の「交通ネットワークの形成」は、中身がない。こういう風に交通ネットワークをもっていくということがほしい。 「連携した」はどう連携するのか書いてない。もう一歩踏み込んだ言葉がほしい。 ４ページの図は横浜駅にバスが行かないように見える。横浜駅にた

	くさんの鉄道、バスが来ている。それはどういうことなのか、階層的に考えると、この図が出てくることはわかる。そこには、若干のダブりがあり、それをうまく調整するだと思う。そのためには、交通の役割を少しダブりながら描かないといけない。面白い図なのでうまく修正してほしい。 （委 員 長） 最後の図は階層的に描いたのか、ただのポンチ絵なのか。 （事 務 局） 階層を意識しながらポンチ絵を描いたもの。 （小泉委員） 委員会でどういうアウトプットをするのかを、進め方に戻って整理しなければならない。どうしてこのテーマにこの施策なのかが分からない。根拠、合理性について現状を踏まえながら説明する作業が必要。そこまで、具体的施策のアイデアをぶら下げるまでを、この委員会で、この短期間で行うのか。それができるのかを事務局としても検討してほしい。 現状や実態を把握し、どういう問題が発生するかを予見して、どのような施策を考えなければならないかをイメージできれば、その素材を作ることで、テーマ別検討につながるのではないか。早急に、都市構造や施策が出てきているが、良いか悪いかを検討するのは非常に議論しにくい。 市民からの情報のインプットがないと課題認識を正確にできない。なるべく早めに行ってほしい。既存のものがあるならばそれに基づく問題指摘が必要。それがないと、資料４、５の施策が妥当であるか評価できない。 （三輪委員） 資料料３、４、５、６が連動しているかが見えない。コンパクトシティが前面に出ているが、現実問題として本郷台等の人口減少が起きている状況（資料３のＰ７参照）に対して、駅周辺としてどう考えるのか。概念的な部分と現実とのギャップをどう考えたたたき台になっているのか。少し飛躍している感じがする。資料の作り方の工夫や全体の流れを明確にしてほしい。 （村木委員） 資料４は脱温暖化について書かれているが、資料６では、交通利便性を訴えてコンパクト化を図っていくことが書かれているものの、資料４より消極的で、非積極的な持続可能なまちづくりを目指しているような気がする。資料４を生かすとすると、横浜が環境モデル都市であることを踏まえ、マスタープランの中で目指す都市の姿として、より低炭素化を積極的に実現するようなものがあってもいいのではないか。柏市のエネルギーアクションエリア、青森のゼロカーボンの取組がマスタープランの中に位置付けられている。新しい取組があっていいのではないか。 資料５では、「コンパクト化の概念」の空間的コンパクトの中で、本格的な人口減少期に急にダウンサイジングやスマートシュリンクが出てくる。果たしてできるのか。これに向けたある程度の規制と誘

	導も入れていくべきではないか。 （真野委員）　タイトルに新聞の見出しのように本文を読ませるような工夫が必要。資料５の③のようにタイトルは平凡でも内容は革新的なことが書いてある。国際競争力を高めることはキーワードである。その内容にふさわしいタイトルにすべきである。 資料６の都市構造図は普通だと行政区域内のことしか描かないことが多いが、本図は周辺と共生するとのイメージが浮かび上がっている。この考え方は面白い。 （委 員 長）　これまでの意見は参考にしてほしい。 この委員会の成果の出し方を確認したい。中間まとめ、提言案は資料を束ねたものを出すのか、われわれの言葉でこうすべきだというものを出すのか。 （事 務 局）　イメージは資料２の右側の将来都市構造までは事務局たたき台を出している。それに対する意見を事務局で修正し、取りまとめていきたい。 （委 員 長）　論理的な資料を読み込む部分は、11 月には相当充実していて、大体良いのではないかということになっていて、23 年度の検討については、この辺を検討してくださいといった感じになるのか。行政の資料を束ねるだけでなく、委員会としての意見を出すということか。 （事 務 局）　宿題は百パーセントできるかは難しいところ。今後の課題や深く検討すべき点などの提言をしてほしい。 （小泉委員）　できるのかどうか。 （事 務 局）　資料５の方策をつけたが、その中身までを議論してもらうには時間が足りない。方策は提言からは抜く方向で考えたい。 （小泉委員）　方策には、漏れもあるかも知れないし、違う選択肢があるかもしれない。しかし、オールタナティブとしてこういう方向性があるというものが、次の検討につながるものがないとだめなような気がする。 （委 員 長）　この委員会としてはいろいろな意見を出し合い、できるだけ整合がとれた形で、踏まえるべきこと、立てるべき計画の内容、計画システムとしてあるべきものを骨子として出し、それを見ると今後の方向性が分かるという提言をまとめることとして考える。 ９月はシステムのことになるのか。11 月には中身をとじ合わせるという段取りで理解して良いか。 （事 務 局）　はい。 （小泉委員）　中身について気がついたこと。少子高齢化社会への対応を資料３の情報からどう読み解くか不十分な気がする。地域ごとに偏りがある。予測するとどうなるかがあると良い。また世帯についての現状、トレンドがあったほうが考えやすい。 都市構造も南側にインパクトがある政策にしたほうが良いのではということもある。横浜に集めるだけで、果たして南側はもつのか心

	配になる。 　できる範囲でデータの補足をしてほしい。既存データの重ね合わせでも分かりやすくなる場合もある。 **(4)　その他** （委 員 長）　次回どういうことをするか。中間まとめではどうするのかを聞いて終わりたい。 （事 務 局）　次回は、資料２の運用上の課題、プランのあり方についての意見を頂きたい。第３回の中間まとめまでには、本日の意見をある程度反映する形でまとめていきたい。 （委 員 長）　アンケート調査はやっているのか。 （事 務 局）　都市マスに関してのアンケートは行っていない。既存のアンケート調査結果で利用できるものは示したい。 （委 員 長）　これで進行を事務局に戻す。 （事 務 局）　次回の委員会は９月の中旬を考えている。別途調整する。
資　　料	資料１　都市計画マスタープラン改定スケジュール（案） 資料２　都市計画マスタープランの改定に向けて（案） 資料３　横浜市を取り巻く社会経済情勢 資料４　これからの都市づくりの課題 資料５　都市づくりの基本理念と目標（たたき台） 資料６　目指すべき都市の姿（たたき台） 参考資料１　横浜市都市計画マスタープラン改定検討委員会設置要綱 参考資料２　横浜市都市計画マスタープラン改定検討委員会委員名簿 参考資料３　横浜市都市計画マスタープラン・全市プラン（平成 12 年 1 月策定） 参考資料４　横浜市基本構想（長期ビジョン）（平成 18 年 1 月策定） 参考資料５　現中期計画における「中長期的な都市づくり」（平成 18 年 12 月策定）